しもつがの「まなびのWA！」

令和７年１２月５日

「WA！」には、輪、和、話、環などの意味合いを込め、管内の学校や教職員のつながり、温かい交流、情報交換の広がりなどをイメージしています。

特別第５号

発行：栃木県教育委員会事務局下都賀教育事務所

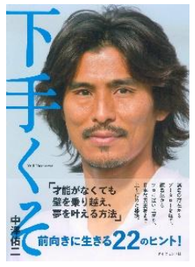
椎　名　副　主　幹　のお薦めする本

①「あん」　ドリアン助川　　ポプラ社



この小説は、小さなどら焼き屋が舞台で、店の店長である千太郎という男性と、アルバイトとしてやってきた 70 歳を超える手の不自由な女性、徳江の物語です。 2015 年に映画化され、映画では樹木希林さんが徳江役を演じています。差別や偏見の中で人生を送ってきたハンセン病回復者の徳江と、生きる気力を失いかけていた千太郎がそれぞれ新しい人生へと踏み出すストーリーを通して、**生きていく上で大切なことについて教えてくれる内容です。**ドリアンさんは「あん」を本格的に書き始めて３年がかりで仕上げたと語っています。以前から、いつかハンセン病を描いた小説を書きたいという思いが実った作品でもあり、著者が伝えたかった思いを感じながら読んでいただければと思います。読書が少々苦手な私でも、一気に読むことができたおすすめの本です。

②「下手くそ」　中澤佑二　　ダイヤモンド社



この本の著者である中澤佑二さんは、元サッカー日本代表として活躍した選手です。無名の存在から練習生を経てプロサッカー選手、日本代表主将となるまでの経験を通じて学んだ、成功するまでのモチベーションの保ち方や秘訣が語られています。「**誰にでも夢を実現するチャンスがある、今はうまくいかなくても夢をつかむ可能性は絶対にある**」と中澤選手の熱い言葉が込められています。下手くそな自分を前向きに捉え、下手だからこそ努力し、挑戦し続ける中澤選手の姿勢に、**スポーツをしている人だけでなく、夢に向かってがんばっている人、挫折しそうな人、また、まだ夢が見つかっていない人も、読んだ人それぞれに勇気をくれる本**です。小・中学生におすすめの一冊です。

③「図書館のゆるゆる人生相談箱」　北海道 斜里町立図書館　ワニブックス



この本は、北海道斜里町立図書館に設置された、中高生限定の匿名掲示板のやりとりをまとめた書籍です。友達のこと、学校のこと、恋のこと、将来のこと、中高生の悩みや疑問、質問、雑談などに図書館職員が真剣かつ穏やかに、時にはユーモアを交えて回答しています。思わずクスッと笑ってしまう回答や、ほっこりと心が温まる回答など、**人の温もりや人への思いが伝わってくる優しい本です。**同世代の悩みや質問に共感しながら、自分なりの回答を考えてみるのも面白いと思います。

熊　倉　副　主　幹　のお薦めする本

①『つかめ！理科ダマン』　シン・テフン作　ナ・スンフンまんが　呉華順　訳　マガジンハウス



科学って難しい？いいえ、そんなことはありません！『つかめ！理科ダマン』は、笑いながら学べる学習まんがシリーズです。変わり者の大学生“シン”は、科学に関してはロケットも作ってしまう天才です。そんな主人公が、ドタバタストーリーの中で、**身近な不思議や科学の原理をスッキリ解説してくれます。**宇宙の神秘、人体の驚き、自然の仕組み…例えば「太陽って何でできているの？」「夢ってどうしてみるの？」「カミナリがジグザクに光るわけは？」など、知的好奇心をくすぐるテーマが満載なので、読めばきっと、「なるほど！」と納得できるはずです。**イラストはカラフルで見やすく、漢字にはふりがな付きなので、小学生から大人までスラスラ読める本です。**楽しみながら学びたい人にぴったりの一冊です！

②『十五少年漂流記』作　ジュール・ベルヌ　編訳　芦辺　拓　Gakken



この本は、日本はまだ明治時代の頃、フランスの作家ジュール・ベルヌが 1888 年に発表した、時代を超えて愛され続ける冒険物語です。

嵐に巻き込まれ、無人島に漂着した十五人の少年たち――彼らは道具も助けもない環境で、力を合わせて生き抜こうと決心します。自分たちしかいない無人島で、困難を乗り越えて成長していく姿は、今の時代でも胸を熱くさせます。しかし、彼らの試練はそれだけでは終わりません。なんと、悪党のウォルストン一味が島に漂着してしまったのです・・・。

『十五少年漂流記』は、いろいろな出版社から本が出ていますが、Gakken の「10 歳までに読みたい世界名作シリーズ」では、**読みやすいように、オールカラーのイラストで物語の世界を表現しています。また、登場人物の関係や島の地図がひと目でわかるようになっているので、まるで自分も少年たちと一緒に冒険しているような気分になれます。**「読むほどに夢中になれる、ワクワクが詰まった大冒険」を味わってみませんか！

③『嫌われる勇気 自己啓発の源流「アドラー」の教え』岸見一郎　古賀史健　ダイヤモンド社



『嫌われる勇気』は、賢い哲人（先生）と悩める青年の対話を通して、アドラー心理学を学んでいく本です。そして、アドラー心理学に基づき、「人の期待に応える人生ではなく、自分の意思で生きること」の意味を教えてくれています。例えば、「過去の出来事が今の自分を決めるわけではない」「誰かに嫌われることを怖がらなくていい」――こんな考え方を知ることができます。難しい専門用語はなく、会話形式なので、まるで先生と話しているように読み進められるのもポイントの一つです。**スラスラ読めるので、読んでいるうちに「本当の自分」を見つけるヒントが見つかるかもしれません。**

「自分の人生は、自分で決めていいんだ！」そう思える勇気をくれる一冊です。悩みがあるとき、ちょっと気持ちを軽くしたいときに読んでみてください！**悩める中学生におすすめの本です。**